

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601738
法人名	株式会社 さくら苑
事業所名	グループホームさくら苑 (ユニット名 1階 )
所在地	福岡県久留米市南1丁目17番1号
自己評価作成日	令和元年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和元年11月19日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は久留米市内でも高齢化率は低いものの高齢世帯、高齢者単身世帯の多い地域にあり、平成15年12月の開設より地域の中に認知症になってしまった方々の住む『家』として事業を行っている。ご利用者が地域に暮らす一人ひとりの住民として暮らしていけるように支援しており、日頃の散歩、地域の夏祭りには毎年参加している。また、開設より16年目を迎える今日、ご利用者の状態も其々に変化しているが、同じ『いえ』に住む疑似家族として、また協力医の絶大なご協力のもと、ターミナル、お看取りまで支援させていただいている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の中にあり、2階建ての各階に1ユニットを有している。一般住宅と変わらない外観に加え、調理をする音や香りが伝わる対面キッチンや日光浴ができるテラス、家庭菜園や花壇など、今までの「家」での生活が継続できる環境づくりを行っている。職員は利用者の方々が、温かい家庭的な雰囲気の中で尊厳を保って生活が送れるように、個別の思いに寄り添う介護の実践をしている。自治会にも加入し地域との関係構築にも努めており、地域行事への参加や事業所行事への参加を互いにおこなっている。医療との連携も密に行っており、協力医は24時間対応可能で、利用者の状態変化の際はいつでも相談する環境が整っている。生涯の最期を家族や職員と共に穏やかに迎えることができるように看取りケア体制も整っている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『私達は暖かい家庭的な雰囲気の中でご利用者の尊厳を大切にしつつ共に暮らしながら心からのケアに努めます。そのためにスタッフ一同相協力しあってご家族や地域との交流の中にも安心と安らぎのあるホームを目指します』との理念の下、実践に取り組んでいる。	玄関に理念を掲示している。朝礼や会議で理念を唱和し、職員間で共有をしている。暖かい家庭的な安らぎのあるホームを目指したケアの実践を行っている。理念に沿わない言動を見受けたときは、職員間で話し合い統一を図ったり、その場で管理者から声をかけたりしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かける際には地域との方々と違和感なく挨拶を交わし地域の保育園の園児たちが事業所の前を道を散歩する時には園児たちとも挨拶を交わしている。自治会に加入し地域の夏祭りにも参加している。	自治会に加入しており、地域の夏祭りや清掃活動に参加している。事業所の行事は地域の方に案内状を個別に届けており、運営推進会議や防災訓練、敬老祭などへの参加がある。散歩の際の会話や野菜を届けてくれるなどの交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症・介護に関する相談は常時受けている。また代表者は地域ケア会議のメンバーであり、地域ケア会議のメンバーで行う『認知症サポーター養成講座』を開催し地域の方々、小学生に対して認知症に対する理解の周知に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービス状況の報告を行い、地域の方に状況等の内容が伝わるように活動内容などを伝えている。会議後には、地域の方にも役に立つ講演等を実施している。	2ヶ月に1回開催し行事の報告、ヒヤリハット、事故報告など報告を行っている。会議後に身体拘束や認知症についての講座を行うなど、多くの家族や地域の方に参加してもらえる取り組みを行っている。外部評価の結果についても報告を行い、いつでも見ることが出来るようにファイルを玄関に置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは日頃より連絡を取り合っている。法人代表は、久留米市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進協議会・久留米市地域包括支援センターの運営に関する協議会・地域密着型サービス運営委員会に属しており、久留米市の地域密着型サービスの質の向上に努めている。	法人代表が市の各種協議会や運営委員会に属しており、行政との関係性も密で、運営推進会議への市担当者の出席もある。管理者も加算や制度の解釈については市の担当窓口に出向き相談を行う等、積極的に関係を築く取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに基づいて身体拘束にならないように取り組んでいる。拘束の判断が難しい場合は運営推進会議の折に身体拘束防止委員会を行って判断を仰いでいる。	年に3回内部研修を行っている。勤続3年以上の職員には外部研修の受講を義務付けている。各居室にはセンサーを設置しており、利用者個々の状況に応じて、現在数名は夜間のみ使用している。玄関にもセンサーがあり、日中は施錠していない。フロア間での行き来もあり身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに基づいて研修を行う事や、勤務経験年数に応じて外部へ研修に行く機会を設けるようにするなどの取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、年に1度は社内研修を実施し学びの機会を設けている。研修の機会を活用できるような取り組みはあまり行っていない。	年に1回、権利擁護の研修を実施している。利用開始時に制度についての説明を行い、玄関にポスターを掲示したり、パンフレットの設置をしている。成年後見制度を利用している人は現在いないが、遠方の家族にアドバイスをを行うなど、いつでも相談にのれる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、書面での同意を頂いている。改定の際は追加の規定を作成し書面を発行するとともに同意書を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族会等の開催、運営推進会議への参加を促し、意見を聞く機会を設け運営に反映できるように取り組んでいる。	意見箱への投函はなく、訪問時に職員より声掛けをし意見や要望の聞き取りを行っている。出た要望についてはチームで話し合い運営に反映している。運営推進会議には、主介護者だけでなく希望する家族等も参加してもらい意見を表出できる機会としている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロア内ミーティングと年に1度の社内アンケートを通して職員の意見を聞くことができるような取り組みを行っている。	年に1度、2月にインターネットを利用した社内アンケートを実施している。アンケートの結果は5月に報告や話し合いをしている。管理者は、日頃の業務の中で話しやすい環境づくりをしており、利用者にとって使いやすいイレの手すりの形状、脱衣所のエアコン導入など、職員からの提案も検討し設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系・職能給基準を明確化した上で、管理者が評価し、代表者へ申し出るシステムを構築。自己評価を含め、各職員がやりがい・向上心が持てるよう配慮している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	事業所に採用面接に来てもらう方を採用対象から排除したことは無く入社後に働きやすい環境が整備できるように入社後の新人研修や親睦会等の開催をしている。	年齢性別に関係なく採用しており、今後外国人介護職員も受け入れる準備を進めている。研修情報は職員用掲示板で案内し、希望する研修に参加できる。資格取得のための研修も勤務調整や費用補助などの配慮がなされている。職員の寮と休憩スペース確保の為、隣接する建物も準備している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修や外部の講師を招いて内部の研修を行い人権研修の取り組みを行う。また、職場マナー研修等も行い研鑽に取り組んでいる。	年に1回の法人内研修を実施している。毎週火曜日には法人代表の朝礼を行い、利用者への言葉かけの大切さや理念に基づいたケアの実践についてなど利用者の人権尊重について話している。人権を損なうと思われる言葉かけは、法人全体で話し合い事業所としての方針を決め職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格での入社の者には、受講料は法人が負担し働きながら初任者研修を受講できるよう推奨している。また、全職員、内外部の研修に積極的に参加できるようシフトの変更など行い、受講しやすい環境作りに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所は、久留米市介護福祉サービス事業者協議会に加入しておりグループホーム部会が実施する研修会には積極的に参加するように勤めておりその中で他事業所との交流を推進している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	転入施設等やご家族からの情報収集を行い、事前のアセスメントや職員間での情報共有を行っている。ご家族とも密に連絡を取り合い信頼関係作りに積極的に取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問や面談でご家族との関係を作り困りごとを聞くなど良好な関係作りに取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人の現状を把握しご家族等とも連絡を取り合い必要な支援を行うよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様と共に過ごすことを念頭に家庭的で家族のような生活ができる関係作りをしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に変化があった場合はご家族等に現状を伝え方向性を話し合いながら定められるようにしている。また、普段の生活でも積極的にかかわって頂けるよう様子を伝える努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談しながら本人が馴染みのある人やかかりつけのDrとの関係を続けられるように支援している。	在宅時のかかりつけ医継続受診や、事業所への友人の訪問などこれまでの関係が途切れない様にしている。家族とも外出や食事をする等、一緒に過ごす時間を作っている、自室で法事をすることもある。家族が訪問したときは利用者と一緒に写真を撮り事業所内に掲示をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないように職員がレクリエーションなどを通して交流を深めることができるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も手紙のやり取りや施設に顔を出して頂き話す機会があるなど関係が続いている。また利用終了後に写真や記録をお渡しするなどの支援もしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際に、これまでの生活歴や日々の暮らしの中の希望等を聞き、尊重できるように取り組んでいる。	管理者や職員は、日々の会話のやり取りや行動、表情から可能な限り利用者の思いや意向をくみ取るように努めている。利用者の生活歴やエピソードなどを家族から聞き、人生の背景を知るように努めている。情報は職員間で共有して支援につなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にこれまでの生活環境や生活歴などの情報収集を行い把握に努めている。また、家族からも以前の暮らしぶりを聞くなどの取り組みをしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のできること、出来なくなっていることを把握し日々の状況に合わせて一日を過ごして頂いている。また、有する能力が発揮できるような支援方法を職員で話し合っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族等の話を聞き、月に1回のミーティングにて色々なアイデアを聞き、利用者にあつた介護計画が作成できるように取り組んでいる。	職員は1～2名の利用者を担当し、モニタリングを行い、職員全員で話し合い介護計画を立てている。主治医、家族からは受診や訪問時等に意見を聞いて反映させている。変化があれば随時見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はタブレット端末で入力し、個別にも訪問診療等の記録を設け記録している。普段の様子等はカンファレンスで共有しケアプランに反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズを適切に捉えられるように情報を密にキャッチし、共有することで対応がとれるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の支援、散歩を通して地域の方々との交流が持てるように取り組んでいる。敬老会のお祝いを行う際は地域の方も招待し関わりを深めるよう取り組んでいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を尋ねている。主治医との連絡、報告は急変があれば連絡をし指示を受け医療を受けることができるように取り組んでいる。	希望する病院が受診できるように支援している。通院は家族が支援するが、家族が行けない場合は職員が支援する。受診結果は家族に知らせている。夜間の急変時でも、夜勤担当者がかかりつけ医から直接指示を受ける等、情報を常にやり取りして協力関係を築いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルサインの変化等があれば管理者や看護師と協働し適切な医療処置等が受けられるように取り組んでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と連携し早期に退院ができるよう医療機関や家族と連絡を取り情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期においては、状態の変化に伴い家族の意向を聞く機会を増やし、主治医とも方向性の連携をとり進むべき方向を探している。	現在まで多くの看取りを経験している。段階ごとに、繰り返しの話し合いを関係者一同で重ね方針と情報の共有をしている。家族がより安心して泊まれる部屋を新たに検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故等の際は主治医等へ連絡を密に行っている。応急手当等もDrの指示に従い行う場合もあるが実践に不安がある事もある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を地域の方と共に行っている。訓練時は昼間や夜間を想定し人員が不足する場合の対応等も検討している。	防災訓練は地域住民も参加し年に2回実施している。火災、水害、地震それぞれに対応マニュアルがあるものの、事業所の現状に即したものはなっていない為、現在新しいマニュアルを作成中である。また、備蓄品においても準備しているが、内容や量についても見直しを検討している。	有事に備え、マニュアルの早期完成と備蓄内容について、職員間の共有が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を傷つけないような声かけをするように取り組んでいる。会話等が上手く伝わらない事があり怒られる事もある。	プライバシーに配慮し、ファイル等は施錠して保管している。排泄介助時はトイレのドアを閉める基本的なことを守るようにしており、見守りなどの支援が必要な場合は本人の視界に入らぬような配慮をしながら対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる方声掛けし判断を仰ぐ、自己決定の判断が介助者側に伝わりにくい方は、その行動や仕草で判断している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の中の一日の流れに沿って行動していることが多いが、ご本人の「今したい事」についてはできる限り支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ希望の服を選んで頂くよう支援している。季節の判断等が難しくなっている方には、職員がその日に気候等を判断し本人と服を選んでいく。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食事形態や必要量に合わせ職員が食事の準備をしている。下膳は手伝って頂くこともある。	利用者の希望も取り入れ献立を決めている。買出しと一緒にいたり、近所から届く野菜や、庭の菜園と一緒に収穫した野菜等も利用している。職員も同じテーブルと一緒に会話を楽しみながら食事をしている。弁当を作りテラスで食べることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は主治医の指示のもと一人一人の水分量を計測し記録している。夏場は脱水予防の為に汁物を増やす等の対策も行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。ご本人にできる範囲はお願いし最後に介護者が必要に応じて仕上げを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排せつのパターンを把握し、適切な時間にトイレへの誘導を行っている。使用するパットのサイズや量もその方に合わせて使用している。	一人ずつに合わせた声掛けで夜間の失禁を防ぎ、その後は自発的に本人が起きてトイレに行くようになったり、医師と相談して薬の量を減らした結果失禁がなくなり自立に結び付いた事例もある。職員は可能な限りトイレで気持ちよく排泄ができるよう日々支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分の促しや、日中の適度な運動を支援する事。牛乳等で排せつを促す事。医師等の連携を取る事等によって個々に応じた予防を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけの工夫等を行い、個々のタイミングを見た入浴の促しをしている。入浴時のこだわりを把握し「気持ちいい」と言われる事を心がけている。	本人が入りたくないときは無理強いせず、日にちや時間を変えて、羞恥心や恐怖心にも配慮しながら気持ちよく個別に入浴できるように努めている。入浴を嫌がる方に「一緒に入りましょう」と声掛けして職員が一緒に入ったこともある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中横になりたいと仰るときは自由に休息をしていただいている。個々の生活習慣に合わせてられるような支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、利用者が最後まできちんと服用できているのかを確認している。また、副作用等は医師と連携し薬の変更があった際に特に注意して観察を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って過ごしていただけるよう家事への参加を促したり体操や散歩など個々に合わせた楽しみを探せるように支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は出来るだけ散歩等、外に出かけられるように声掛けを行っている。また、介助者で出来ない支援はご家族の協力も促し外出の支援を行っている。	利用者の希望に沿い、近所の散歩や外食、花見等に外出することで楽しく過ごせるように努めている。外出が困難な方には、車いす使用したり、テラスやウッドデッキに出たりして外の空気や季節を感じられるよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しているが、金銭管理をできない利用者が殆どであるため、必要なお金はお預かりし必要な時に預り金から使用している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば一緒に手紙を書いたり電話をしたり等の支援を行っている。携帯電話を所持してある利用者もいらっしゃる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでも季節感を味わっていただけるように共有の場に季節の飾りを行うなどの工夫をしている。	建物全体に窓が多く自然光が入るので、適度な明るさが保たれている。リビングに居ながらキッチンの調理の音や匂いを感じ、椅子やソファで寛げるように家具を配置している。階段の壁には笑顔で一杯の利用者と家族の写真を沢山飾りつけている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを配置し、リビングのテーブルも個々の気に入る場所を決め、本人の好きな場所でくつろげるように支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	もともと自宅で使われていた家具、家族写真や昔のアルバム等をもってきて使用していただくなどの支援を行っている。	ベッド、カーテン、収納スペースはあらかじめ用意している。畳の希望があれば敷くこともできる。使い慣れた筆筒やテーブル以外に仏壇を置くこともできる。本人が安心して暮らしやすいように家族とも話し合いながら支援に努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等がおこらないように手すりやセンサー等を設置し安全の配慮をしている。一人一人「できること」「わかること」が違う為アセスメントし必要な支援を行えるよう配慮している。		